

第6次高浜市総合計画 答申 記録

日 時	平成23年1月13日（木）午後8時20分～9時		
場 所	高浜市役所 第5会議室（4階）	傍聴人数	10名
出席者	委 員	中川幾郎、板倉良平、神谷小百合、尾方勝利、鈴木康博、神谷環光、 竹内亨弘、神谷和之、古橋知美、神谷通夫、小野田由紀子、杉浦幸七 （12名出席）	
	事務局	地域協働部長 岸上善徳 地域政策グループ リーダー 神谷美百合 同 主 幹 岡島正明 同 主 査 鈴木明美 同 主 任 山本久美 同 主 事 岩崎和也 同 主 事 中村彩 （7名出席）	

- 事務局：
- ・ それでは、ただいまから答申に移ります。
 - ・ 本日は市長が急病のため、代理で杉浦副市長が対応させていただきますので、よろしく願いいたします。
 - ・ 中川会長から一言お願いします。
- 会長：
- ・ こんばんは。今日は、奈良県からスタートし、高松市に今までおりまして、新幹線でやっとここに着きました。
 - ・ 黄色い冊子がお手元にあります。今日これを、市長の代理の副市長にお渡しするという運びになっております。大変感慨無量でございます。
 - ・ この総合計画は市民力でできたと言っても過言ではありません。それだけではなく行政の事務局力も非常に大きかったと思います。つまり、市民と行政の本当の意味での参画と協働の結実の賜物ではないかと思っています。
 - ・ 最初、こんなに多くの分科会で、しかも 100 人以上の公募市民で計画を作るとお聞きしたときに、本当にできるのだろうかと不安を覚えました。2 回、3 回、4 回と繰り返していくうちに、これは大丈夫と、深く安心したということ、今改めて思い浮かべます。
 - ・ それは「大家族たかはま」という表題に典型的に表れている。日本全国で、こんなに血の通った表題の付いている総合計画は実は初めてではないかと思っています。非常にパンチ力がある総合計画ができたと思っています。
 - ・ 目標の設定というのは新型の総合計画の今日では当たり前前のスタイルとなっておりますが、市役所サイドにおかれては、このような総合計画を頂くというのはたぶん初体験になると思います。そういう意味では、行財政改革、もしくは行政の文化改革ということに大きなインパクトを与えるものとなります。また、市民の側から見たときにも、とても分かりやすい総合計画だと思います。市民にも行政にも大事にしてもらえる総合計画になったと思っています。皆さまと長い間ご一緒できたことを私も喜んでおりますし、感謝しております。ありがとうございました。
 - ・ この総合計画は、皆さんお一人お一人の知恵と力を結集して作り上げた物でございますので、答申書をお渡しする儀式をさせていただく前に、ここにお集まりの皆様方から一言ずつご意見・ご感想を頂けたらと思います。
- 委員：
- ・ 「大家族たかはま」という言葉に大変感動しています。家族という言葉聞きまして愛情とか、思いやり、優しさ、そういうものを代表する形だと思っています。高浜市がそのような社会になるとありがたいと思います。10 年後の高浜市がそういう社会になっていることを期待しております。これからもみなさんと一緒に頑張っていきたいと思っています。
- 委員：
- ・ 大家族と言うことですが、人が多くなると、見て見ぬ振りをしてしまうことが多い。2 人家族ならば責任を持って担当のことをやるのだけれども、人が多くなれば誰かがやってくれるだろうということで、責任を全うしない、そんなことにならないように、私も、会議に参加できましたので、これからは責任を持って高浜市民として「大家族たかはま」を支えていきたいと思っています。
- 委員：
- ・ これからも、高浜市の大家族については支えていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

- 委員： ・ 市民会議の話を頂いた当初は何をして良いか分からず、集まってメンバーを見たら、大変な人たちがみえるなという感想を持っていたら、いつの間にかそのグループリーダーという、何かとんとん拍子に進んでしまっていて、戸惑いながら進んでいった覚えがあります。いろいろな個性のある方々が当分科会に集まってくださいましたが、その一人ひとりの人から、立場の違った一言、一言が非常に重くなってきました。初めは気楽に考えていたのですが、いや違うなと思い直しました。
- 委員： ・ 耳障りの良い言葉をたくさん並べるのは簡単だと思うのですが、これからが重要だと思います。逆にプレッシャーを感じるようになってきます。作るまでも大変ですが、作ってからの実行もまた大変です。中心には高浜市が良くなるということが必要です。高浜市民として少しでもこれをうまく実行できて、高浜市が少しでも良くなることに少しでも力になればなと思っています。
- 委員： ・ 実行していくのが大変だと感じています。特に、自分の分科会には、初めて顔を合わせるような方もたくさん見えて、熱い想いがあったのですが、どちらかと言うと各論が多かったのも、それを吸い上げきれませんでした。それは自分の中では非常に残念だったなと思いますが、行政の方も十分理解された、アイデアとして拾っていただけるのではないかと感じております。裏に秘められた百何十人の皆さんの熱い思いを、行政の方、そしてまた一個人として今後、「大家族たかはま」が実現できるように、頑張っていきたいと思っています。
- 委員： ・ 事務局の粘り強さと市民の声が一体となって出来上がった非常に良い計画だということを、常々感じております。そういう計画は、市民と行政の間に温度差がほとんど無い、したがって、底辺の方へ説明して広げていくときに、非常に説明がしやすい計画ではないかと思っています。
- 委員： ・ 個々に見ても初めて読んだ人が、これはどうなのと質問があっても説明しやすい目標だとかプログラムではないかと思っています。したがって、結果としては底辺がどんどん広がって、理解者が増えて、立派な成果につながっていくのだろう、そういう風に、持って行くように努力したいと思っています。
- 委員： ・ 最初、市民会議と審議会に出させていただいた時には、自分に何ができるのだろうという不安しかなかったが、中川先生から、できることをやれば良いと言っていたので、良いヒントをいただきました。
- 委員： ・ では、自分は何が出来るのだろうと1年間ずっと考えてまいりました。何が出来るかと言うと、実際に動いて何かするということが自分に一番向いているのではないかと感じております。これからは、目標に向かって、動いて頑張りたいと思っています。
- 委員： ・ 審議会や市民会議にも参加させていただいて、本当に皆さん人との関わりを求めているのだな、楽しみにしているのだなと、会を重ねるごとに感じました。
- 委員： ・ 自分も人と関わるのが好きで、何の力もなく、たいした人間でなくとも、まちのために一言、言葉が持てるのだと思いました。高浜市はそういう声を吸い上げてくれるまちであるということ、とても実感できた会でもありました。
- 委員： ・ 総合計画という大掛かりな言葉ではありますが、それは自分たちのことなので、他人事に考えずに、人任せにしないで、自分がそこに関われた分、本当にまちを本当に愛せる、そのまちに住む人たちと触れ合えるということ、日々考えていました。どんな計画になるのかと、当初からワクワク感いっぱい参加していました。

- ・ まだまだ小さな子どもたち、生まれ育ってくる子どもたちが高浜市にはたくさんいるので、その子どもたちが住み続けたいまちになる高浜市でありたいと思っております。末永くそういったまちが続くように、その願いで活動を続けていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。
- 委員： ・ 分科会のリーダーは何をやるのだろうかという、そこからのスタートでした。ここまで来られたのも、メンバーのおかげであります。
- ・ 毎回の分科会、本当に参加者が多くて、意見が活発に出ました。書記の方が書ききれないくらいのたくさんの意見をいただきました。市民のアンケートですとか、小学生、中学生のアンケート、それにどれだけ応えられるものができたか、心配ではありますが、これから良く見ていきたいと思ひます。
- 委員： ・ 皆様の熱意のこもった血と汗と涙の結晶ともいえる総合計画にずっしりと重みを感じておりまして、議会側といたしましても、これからますます地域密着型の議会改革を推し進めていかななくてはならないと、決意をした次第でございます。
- ・ 今後は、この第6次総合計画に基づきまして、まちづくりがきちんと形になっていくように、私どももしっかり働いていかななくてはならないという想いでいっぱいでございます。本当に長い期間にわたりまして、ご尽力賜りましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。
- 事務局： ・ それでは、これより答申に移りたいと思ひます。
- ・ 会長と副市長は、前へお願ひします。では、答申書をお渡してください。
- 会長： ・ 平成23年1月13日、高浜市長 吉岡初浩殿。高浜市総合計画審議会 会長 中川幾郎。第6次高浜市総合計画について答申。平成21年12月21日付け21高地政第88号で諮問のありました標記の件について、市民意見を踏まえ、慎重に審議を重ねた結果、別添のとおり取りまとめましたので答申します。なお、計画の推進にあたっては、審議の過程で出された意見及び高浜市自治基本条例に定める「まちづくりの基本原則」を十分に踏まえ、市民と職員の協働による推進体制をより推し進め、計画の進捗状況や成果等を分かりやすく公表しながら、指標に基づいて適切に進行管理を行うことによって、将来都市像「思いやり 支えあい 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の実現が図られることを切に願ひします。どうかよろしくお願ひいたします。(答申書 提出)
- 会長： ・ 実は、答申書は、私が代表してお渡ししましたが、この計画には、今日お見えになっていない市民会議の皆様の思いがたくさん詰まっております。そうした熱い想いを、事務局さんにお願ひして形にしてもらっております。(事務局 パネルを運ぶ)
- ・ 市民委員さんの方から、このパネルをお渡しいただけますか。(市民委員 前へ集まる)
- 委員： ・ 第6次総合計画のキャッチフレーズであります「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の実現のために、私たち市民も頑張ります。行政におかれましても、市民の想いをしっかりと受け止めていただいて、お互いに手を取り合っ、頑張っていきたいと思ひます。このパネルをお受け取りいただきたいと思ひます。(市民委員一同 パネル授与)
- 副市長 ・ 市長が出席させていただいて答申を受理し、お礼のご挨拶を申し上げるところでございますが、あいにく市長が体調不良のため出席できませんので、代わりまして、

私から一言ごあいさつを申し上げます。

- 皆さん、改めまして、一年間大変お疲れ様でした。平成 21 年 12 月 2 日に、高浜市の未来を描く市民会議が誕生し、皆さんにはお仕事の後や会議の合間など、大変お忙しい中、これまで 120 回以上の討議を経て総合計画をまとめていただきましたことに対しまして、心から感謝を申し上げる次第でございます。
 - 総合計画とは高浜市をつくっていくための設計図であります。決して行政が勝手に作って勝手に進めていくものではありません。高浜市というまち、皆さんからのこんな高浜市にしていきたいという理想を現実にするための確かな目標ができあがりました。しかし、これで終わりではありません。この総合計画という設計図を、市民、議会、行政が共有し、役割分担をしながら、みんなで力をあわせて、将来都市像「思いやり 支えあい 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の実現に向けて進めていくことが必要です。
 - そのためには、行政も、皆様の熱い想いを実現するために、これから全力で取り組んでまいります。行政だけでは出来ないところも当然ありますし、進捗管理は市民目線で行っていきたくて考えております。是非、これからも皆さんのお力をお借りして、まさに大家族のように、みんなで高浜市のことを考え、行動に移していくという、市民自治都市・高浜市をみんなでつくり上げていきたいと思っております。
 - 終わりに中川会長様には大変お忙しい中、また長期間に渡りまして総合計画、また、それに先立ちました自治基本条例対しまして、ここまで取りまとめていただきまして、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。
 - また、これまで一生懸命お考えいただきましたこの思いをまとめていただきましたご努力に対しまして敬意を表するとともに、今後とも一層のご支援、ご協力をいただきますようお願いする次第でございます。以上、意を尽くせませんが、答申に対するお礼のごあいさつとさせていただきます、本日は誠にありがとうございました。
- 事務局：
- 以上を持ちまして、本日の予定はすべて終了となりました。長時間にわたりありがとうございました。



▲ 委員から一言ずつ



▲ 答申書 提出



▲ パネル授与



▲ 出席委員一同